

文部科学省委託事業

平成28年度

「首長部局等との協働による
新たな学校モデルの構築事業」

報告書



新居浜市

愛媛県立新居浜南高等学校

1 本事業の趣旨

地域コミュニティの衰退や子供の問題行動等、学校・地域の差し迫った社会的・地域的な課題に対し、首長部局や関係機関等との協働体制を確立し、課題解決に向けて取り組む新たな学校モデルの構築が求められており、こうした新たな学校モデルを推進することで、地域の多様な資源を活用した質の高い課題解決型教育を実現することが期待される。

協働による新たな学校モデルの構築については、学校及び学校の設置者が主体的に取り組むものであるが、その際に参考となる具体的な研究課題を設定した実践的な研究を教育委員会に委託して実施することにより、質の高い学校教育の推進に資する。

2 事業期間

平成28年7月4日 ～ 平成29年3月31日

3 研究課題

- シビックプライドを磨き、語り継ぐ人材育成のための新授業カリキュラムの構築
- 高校生が地域と協働で「学びの絆サイクル」を循環させる学習機会の創造

4 実践研究のねらい

- 地域を語れる人材の育成
知識＋実践→自己有用感→地域への愛着や誇り（シビックプライド）
- 首長部局等との連携・協働を通じて、高校生の地域社会の一員として存在意識を高める。
- 社会の中で活動することで、高校生自らを客観視できる力や多様性を尊重する力を習得する。
- 「学びの絆サイクル」を地域に構築することで、高校生が子どもや大人に教える力を習得する。
- 高校生が生きていく力を総合的に習得することで、学校の社会的な存在感を高める。

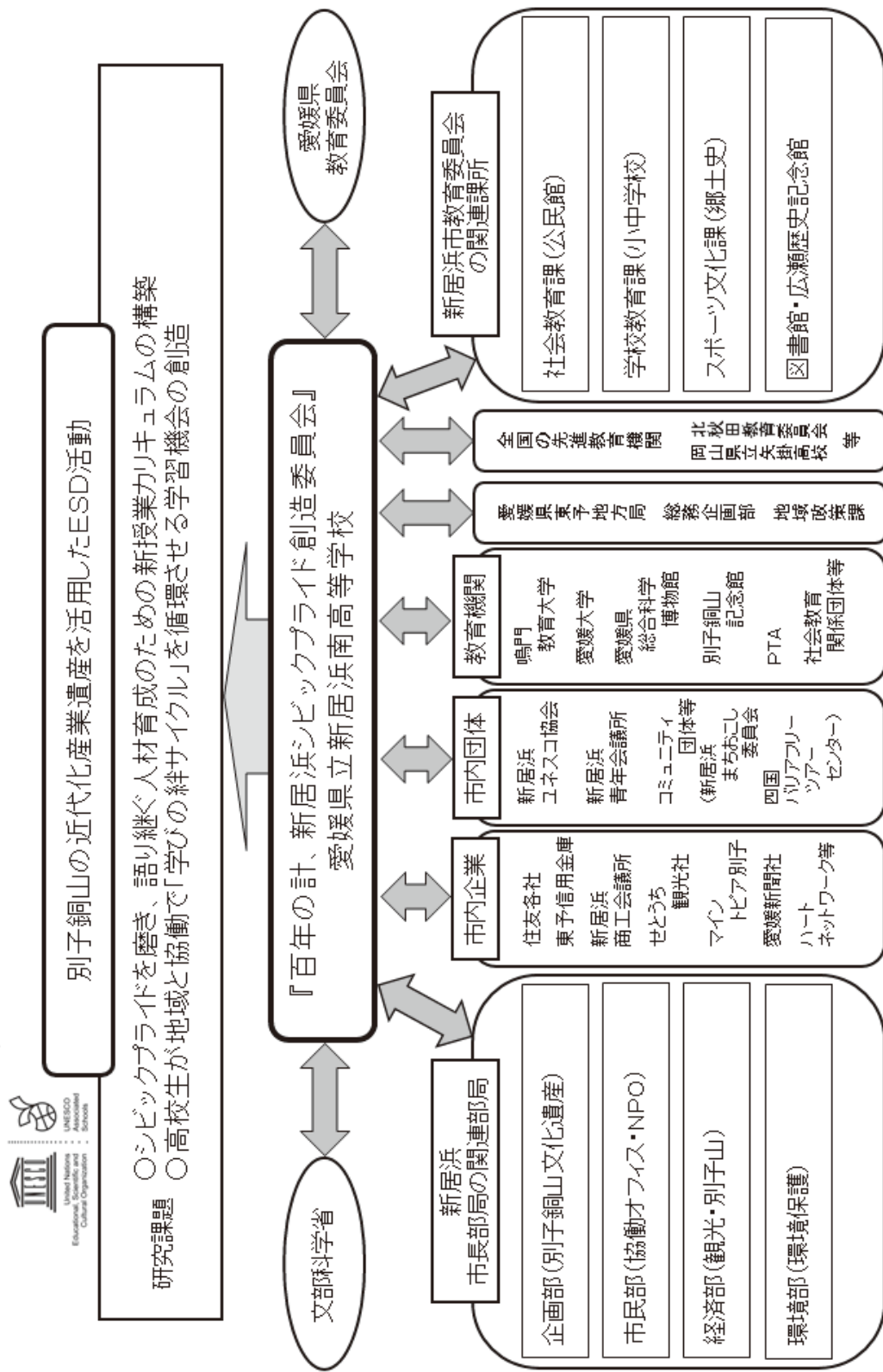
5 事業の概略図

次ページの様に、愛媛県立新居浜南高等学校（以下、新居浜南高校）に首長部局および大学、地元企業や団体等による『百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会』（以下、CP委員会）を設置した。

新居浜南高校は、1999年より別子銅山の学習に取り組み、その評価を受け、2010年に四国初のユネスコスクールに認定されている。

現在、「別子銅山の近代化産業遺産を活用したESD活動」をテーマに活動しており、このことを基軸に首長部局等との連携・協働を通じた事業実践を図った。

平成28年度「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」イメージ図



6 実践研究の内容

主な活動一覧

[]:主催 ():開催場所 なお、無明記は本校

月	日	内 容
7	12	総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」課題研究 『あかがねの道～別子銅山の先人達の生き様からESDを学ぶ～』（東平地区）
	14	伊予銀行登道支店 「未来へつなぐ別子銅山～地域の宝から世界の宝へ～」展（～8/29）
	14	平成28年度 第3回図書館学習会 「別子銅山 近代化産業遺産の旅～旧広瀬邸トラベラー～」
	16	第10回新居浜ユネスコ寄席～つなげよう平和の心～
	17	「イオン新居浜15周年祭」ユネスコ部活動発表
	17	平成28年度「TOYO産業遺産ガイド」養成講座のガイド [愛媛県東予地方局]（山根地区）
	19	東予信用金庫泉川支店「石見銀山現地研修活動パネル」展開催（～8/29）
	20	東北現地研修 「鉱山（やま）交流でつくる絆～その先にあるものを探して～」事前学習会
	21～24	東北現地研修 （秋田県：小坂鉱山・尾去沢鉱山・阿仁鉱山〔北秋田市立阿仁合小学校・秋田大学との交流〕）
	27	「別子銅山を学ぼう！」～銅の折り鶴づくり～（船木公民館）
	27	東北現地研修報告会〔新居浜市教育委員会 関福生教育長 来校〕
28	新居浜市シティブランド戦略の策定に向けた市民ワークショップ [新居浜市地方創生推進室]（市役所）	
30	第21回海外高校生スピーチコンテスト in 新居浜（新居浜市市民文化センター）	
31	第21回海外高校生スピーチコンテスト参加者の別子銅山観光案内（東平～端出場）	
8	1	平和の鐘を鳴らそう 新居浜ユネスコ協会青年部活動パネル展（～8/7） [新居浜ユネスコ協会]（イオンモール新居浜・サウスコート広場）
	6	第7回平和の鐘を鳴らそう〔新居浜ユネスコ協会〕（イオンモール新居浜）
	6～7	平成28年度 別子銅山創造塾③「端出場・山根・鹿森地区」別子ハイツ宿泊研修
	10	平成28年度愛媛県新規採用教員地域研修～別子銅山登山研修～
	12	東予地方局とのイベント打ち合わせ
	13	平成28年度社会教育主事講習「社会教育現地演習」〔愛媛大学〕 （マイントピア別子端出場ゾーン）
	19	別子銅山近代化産業遺産創造塾 適正審査・認定証授与式〔新居浜市〕（新居浜市）
20～30	「ふる里新居浜の誇り発見物語」展〔新居浜まちおこし委員会〕 （新居浜市立別子銅山記念図書館）	
23	教員のための博物館の日2016「東予の誇れる産業遺産（たから）」講習会 [愛媛県東予地方局]（愛媛県総合科学博物館）	
9	3	第3回別子銅山を読む「住友の歴史から」坪井利一郎氏〔別子銅山記念図書館〕
	10	ペルー駐日大使、チンチェロ市長の別子銅山視察ご案内
	17	惣開公民館 観月会〔惣開公民館〕
	19	大ペルーアンデス文明展～東洋のマチュピチュの麓にて～見学〔新居浜市〕 （あかがねミュージアム）
	23	角野小学校5年生 別子銅山登山事前学習 出前授業 100名

月	日	内 容
10	1	読売テレビ「遠くへ行きたい」竹下景子さん別子銅山案内
	2	夏井いつき 俳句ing Walking in 東平 [新居浜市観光協会]
	6	中高連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立北中学校 1年生 90名
	8	別子銅山モニターツアー [新居浜市・愛媛県東予地方局] 愛媛大学学生 32名 (外国人 10名) + 教員 4名 (山根地区・マイントピア別子)
	14	ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」 新居浜市立東中学校 1年生 134名
	21	ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」 新居浜市立川東中学校 1年生 191名
	25	「ライフスタディⅡ」課題研究 『あかがねの道～別子銅山の先人達の生き様からESDを学ぶ～』愛媛県総合科学博物館
	30	別子山自然フォーラム [同実行委員会]
11	1	第52回文化祭 「東北視察研修報告」および「ふる里新居浜の誇り発見物語」パネル展示
	6	別子銅山図見学 (別子銅山記念館)
	12	別子銅山を読む「別子山村郷土誌と別子山村史」坪井利一郎氏 [別子銅山記念図書館]
	15	「ライフスタディⅡ」課題研究 『あかがねの道～別子銅山の先人達の生き様からESDを学ぶ～』星越地区
	17	東京大学大学院教育研究科 牧野篤先生講演及びスキルを磨く研修
12	6	第1回百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会
	16	高校生と一緒に別子銅山を探検しよう！in 角野 [角野公民館] 角野小学校 6年生 114名
	18~21	ユネスコ部台湾視察交流事業 [新居浜ユネスコ協会] (国立鹿港高級中学・九份等)
	26~27	鉱石の道推進協議会先進地視察 (兵庫県但馬、朝来行政職員)
1	24	「平成28年度地域とともに生き地域とともに歩む高校生育成事業」 プレゼンテーション審査会 [愛媛県教育委員会] (松山にぎたつ会館)
	27	新居浜市立惣開小学校ESD学習発表会見学
	28	「第10回とくしま環境学習フォーラム」講演・発表 [徳島県・NPO環境首都とくしま創造センター・徳島新聞社] (徳島市シビックセンター)
2	3	「産業社会と人間」 『別子銅山 近代化産業遺産フィールドワークⅠ ～旧広瀬邸・広瀬歴史記念館見学～』事前学習会
	5	地域教育東予ブロック集会第1回大会 [同実行委員会] (西条市中央公民館)
	9	「産業社会と人間」1年次生116名 『別子銅山 近代化産業遺産フィールドワークⅠ～旧広瀬邸・広瀬歴史記念館見学～』
	11	平成28年度第2回ESDフェスティバル [新居浜市教育委員会] (あかがねミュージアム)
	12	第27回新居浜グローバルパーティー [同実行委員会・SGG] (ウィメンズプラザ)
	16	第2回百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会

(1) 東北視察研修事前学習会【7月20日】



学習会の様子



秋田県について発表している様子

新居浜南高校ユネスコ部は、7月21日～7月24日までの3泊4日間で、秋田県の尾去沢鉱山・小坂鉱山・阿仁鉱山へ現地研修を行うこととなった。

文部科学省主催による「首長部局等との協働による新しい学校モデル構築事業」(新居浜市が受託し、実践は新居浜南高校が担う)の一環で、高校生派遣事業として実施されるものである。今回の現地研修のテーマは「鉱山(やま)交流で造る絆 in 東北～その先にあるものを探して～」とした。日本最大規模の銅鉱脈群採掘跡が残る鉱山として有名な尾去沢をはじめとする各鉱山の見学もさることながら、特に阿仁鉱山では、地元の小学生から観光案内をしてもらったり、高校生や大学生とのシンポジウムなどの交流会も予定しており、そこから次に見えるものをお互いを探してみたいと思う。

今日は、その出発前日となることから、ご同行いただく新居浜市役所職員や学校評議員などを学校にお招きし、事前学習会を行った。部員がそれぞれ分担して、当地の概要や文化、高校生からの視点での観光地や伝統工芸品、食べ物、各鉱山の歴史や特色、交流先の学校などについて調べたことを発表した。どの内容も時間をかけて研究し、発表方法や画面構成などよく工夫され、とても分かりやすい内容であった。

(2) 東北視察研修【7月21日～7月24日】



康楽館前にて



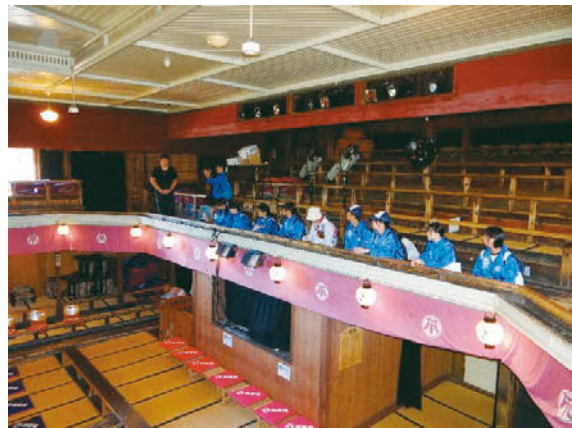
康楽館副館長の田中出さん

研修初日に訪れたのは、秋田県小坂町の康楽館であった。ここは、明治43年(1910)に建築された木造2階建、収容人数は600名余りで、平成14年(2002)に国重要文化財となった芝居小屋である。

始めに、副館長の田中出さんより、館の概要や演じられる芝居についてご紹介いただいた。その中で驚いたのは、劇団員に新居浜出身者がいたことであった。残念ながら来月予定の芝居であることから、ご本人にはお会いできなかった。



康楽館内部の様子



2階様敷席の様子



楽屋内を案内する黒子の中村謙太さん



回り舞台の下部の様子

そして、黒子の中村謙太さんより、館内を案内いただいた。館の歴史や特徴、舞台装置や楽屋、切穴(すっぽん)、回り舞台まで見せていただくことができた。

別子銅山にもかつては回り舞台が備わった劇場があったが実物は無く、資料や想像でしかガイドできなかったが、今回本物を見ることができた。また、舞台の回し方なども具体的に知ることができ、今後活かせる多くのヒントをいただいた。

続いて、館に隣接されている小坂鉱山事務所を見学した。快晴の空の下にモダンな洋風建築が目の前に現れ、その美しさに全員が歓声をあげた。ここは、明治38年(1905)に建設された木造3階建、ルネッサンス風の外観意匠を今に残し、康楽館と同様に国重要文化財となった。

小坂まちづくり株式会社総務課長の田原正志さんより事務所内を案内いただいた。始めに、事務所の歴史や建物の外観、周辺の近代化産業遺産について説明していただ

いた。中へ入ると、玄関ホール中央に3階まで突き抜けるケヤキを用いたモダンで大きならせん階段が現れ、圧倒された。らせん階段の曲線はとても優美で気品にあふれており、明治人の気風を感じることができた。また、建物内には様々な工夫やこだわりが施されており、上げ下げ窓には左右の窓枠にランサーを取り付け、自由な位置で窓の開閉の広さが調整可能なこと、サラセン風のバルコニーの透かし彫りの中に当時の経営者であった藤田組の社名がデザインされるなど、先人のウィットさを今に伝えていた。

さらに事務所内には、各部屋に小坂のまちの歴史や文化、町に広がる近代化産業遺産の紹介を、写真パネル、模型、ビデオコーナーなど、趣向を凝らしたアミューズメンタルな演出で展示し、随所に見学者を飽きさせない工夫がなされていた。



小坂鉱山事務所前の様子



小坂まちづくり(株)総務課長の田原正志さん



らせん階段を上る様子



バルコニーの様子

また、製錬時の煙害問題による環境破壊にも触れ、緑を回復するために植えたニセアカシアが、開花時期に甘い香りが町を包み込み、今では多くの観光客を呼ぶ風物詩となっているとのことであった。

そして、小坂では黒鉱と呼ばれる様々な金属がまじりあった鉱石から、それぞれの金属をより分ける技術を持っていることから、閉山後は、電子機器の廃棄物から金属を取り出す、いわゆる都市鉱山からの製錬に切り替え、現在も稼働を続けていることも知ることができた。

ところで、ここの売店には事前学習で知ったババヘラアイスが販売されており、生徒たちはおいしい学びも楽しんでいた。

その後、尾去沢鉱山へ移動し、昼食を挟んで見学を行った。

ここでは、株式会社ゴールデン佐渡（新潟県・佐渡）を本社として尾去沢鉱山での営業課長である関村秀穂さんより案内いただいた。

始めに資料館にて歴史や鉱脈の作り方やその規模、採鉱で使用した道具などについて説明をいただいた。

尾去沢鉱山は和銅元年（708）に発見され、ここで産出された金は、平泉の中尊寺金色堂に使用されたといわれている。



大人気だったババヘラアイス



説明される営業課長の関村秀穂さん



観光坑道入口にて



観光坑道内の様子



高さ30メートルに及ぶ採掘跡

その後、観光坑道に入った。坑道内は気温13度と、外気との温度差に驚いた。

坑道の壁面には露出した約 900 万年前の地殻の断層やアメジストなどの鉱物がそのままの形で見え、直接手で触れることもできた。また、今も残る銅鉱脈はまるで金屏風の様であり、別子銅山での採鉱体験者が語っていた様子を目の当たりにすることができた。

さらに、近代坑道として高さ 30 メートルにも及ぶ採掘跡の規模は、漆黒の闇の中、キャップランプの灯りを頼りに作業を行ったことの凄さに唖然とした。一方で、南部藩政時代の二尺三尺坑道の手掘り坑道が見て取れ、そのノミ跡からは、当時寿命 30 歳といわれた坑夫たちの命の証が刻まれているエネルギーをひしひしと感じた。そして、採鉱技術が時代とともに移り変わって行く様も同時に学ぶことができた。

ところで、尾去沢鉱山は三菱の経営であったが、山神は大山祇神社で別子銅山と同じであり、大変な親しみを感じた。



製錬所跡を見学する様子



製錬所の煙突

最後に、坑外の近代化産業遺産をバスに乗って、選鉱場跡や製錬所跡、高さ 60m 余りのコンクリート製の煙突などを見学した。目の前に迫る先人たちの偉業を肌で感じることができた。

しかし、坑外の近代化産業遺産は崩壊が進み、残していきたいという住民の想いと経済的な負担という保存の難しさなど、課題も同時に知ることができた。

本日の研修を通して、それぞれ案内いただいた方々に共通することは、地域に対する愛着や誇りを言葉に表されていることであった。少ないスタッフの中で、一人で案内役、販売員、バスの運転手、メンテナンス作業など何役もこなしている姿が拝見できた。生徒たちはその姿を通して、町に誇りを持ち、その歴史や文化を伝えていこうとする人としての在り方を学ぶ機会にもなった。

研修二日目、本日も天候に恵まれ、素晴らしい研修日和となった。

ホテルを予定通り出発、最初に阿仁ふるさと文化センターに到着。すぐさま、この度の交流会のお世話をさせていただいた北秋田市教育委員会生涯学習課生涯学習係の松田純子さんと打ち合わせを行った。ご多忙の中、これまで相当な時間をかけてご準備いただいたことに対して心より感謝の意を申し上げた。

会場には『阿仁鉱山（やま）交流会～愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部を迎えて～』の大きな横断幕を作成いただいております、細やかな心づくしのお気持ちに胸が熱

くなった。

開会セレモニーでは、北秋田市教育委員会教育次長の長崎幸雄さんより、歓迎のごあいさつをいただいた。

次いで、ユネスコ部部長の寺尾遥さんがあいさつさせていただいた。ユネスコ部の活動紹介や松田さんにご縁をいただいたきっかけ、たくさんの方々のおかげで研修に来られたこと、交流会への期待等について、立派なあいさつができていた。

そして、阿仁合小学校代表の児童からは、鉱山について学んできたことや自分たちのガイドを通して町の良さを一つでも知ってもらいたいと元気なあいさつをいただいた。

次に、秋田県文化財保護協会阿仁支部長・阿仁合ぶらぶらガイド代表の戸嶋喬さんより、阿仁鉱山の歴史について概要説明があり、阿仁鉱山の一つである真木沢銅山は宝永3年(1706)に住友(泉屋)が開発しているお話をいただき、ちょうど310年の時空を超えてここに新しい出逢いが生まれたことに不思議な縁を感じ感慨深い思いとなった。そして、享保元年(1716)には日本一の産銅量を誇っていたことなどをお教えいただいた。



北秋田と新居浜の懸け橋となってくださった松田純子さん



あいさつする寺尾遥さんの様子



講演される戸嶋喬さんの様子

その後、阿仁合小学校児童5・6年生15名による観光ボランティアガイドを行った。阿仁合小学校の全児童数は31名、3年生からふるさと学習が始まり、5年生からガイドを始めるとのこと。年間3回程度実施をしており、今年は初めてのガイドとなった。

始めに、阿仁ふるさと文化センターを出発し、阿仁合駅へ移動した。

ここから小学生5名が1組になり、3班に分かれてスタートした。阿仁合ぶらぶらガイドの方々も同行してくださった。小学生は手作りの旗を持って先導し、各ポイントに来ると、立ち位置を考え、案内する対象に手を差し伸べ、原稿無しで説明を行った。目をきらきらと輝かせながら、自分の言葉で自分の想いを伝えようとする姿は、

ふるさとへの愛着や誇り、自信に満ち溢れていた。そして、その想いが私たちにしっかりと伝わってきた。また、歩くスピードもお互いに声を掛け合って注意し、休憩を入れるタイミングも絶妙で、水分補給の注意まで細かく気配り、心配りができていた。さらに、手作りの紙芝居を披露したり、クイズを出したりするなど、随所に工夫が見られ、驚きと感動の連続であった。高校生にとって、自身のガイドを振り返る好機となり、多くのヒントや気づきを得ることができたものと思う。一番感動したのは、児童が地域の大人の方々に温く見守られながら、深い信頼関係の中で伸び伸びと活動していることであった。またその循環のしくみができていた。



阿仁合小学校児童によるガイドの様子



手作り紙芝居によるガイドの様子



クイズを出題している様子



児童による「阿仁からめ節」の様子

最後に、児童全員が「阿仁からめ節」を紹介してくれた。北秋田市無形民俗文化財にもなっている。「からめ」というのは鉱山の坑道口前に掘り出された鉑（はく：鉑石のこと）を鎚で細かく叩いて選鉑する鉑つぶしのことをいう。その作業は大変きつい仕事で、この辛さや疲れを紛らわすために合わせて唄った作業歌がからめ節の基になっているといわれる。

阿仁合小学校の児童の皆さんはガイドや民俗芸能など、今回の私たちの訪問のために懸命にたくさんの時間をかけてご準備していただいていた様子が見え、感動で目頭が熱くなった。お別れの際には、記念写真を撮り、握手で別れを告げ合うなど、感動の交流会となった。



握手でお別れしている様



阿仁合小学校児童の皆さんと記念写真

昼食は、「鉱山文化の試食会」として馬肉ハヤシライスをいただいた。昔、坑夫が身体を壊した際に馬肉を食べて回復したことから、この地に馬肉を食べる習慣が生まれ、それにちなんでの馬肉を使用したハヤシライスであった。阿仁合駅構内にある「こぐま亭」の定番メニューで、ここのシェフはフランス料理店で料理長を務めていたとのこと。味もさることながら、このような趣向を凝らしたご配慮までいただいたことにも感激した。

午後からは、阿仁総合窓口センターを会場に、秋田大学学生との交流会が行われた。

交流会は秋田大学北秋田分校長の濱田純先生をコーディネーターに進められ、始めに、ユネスコ部が「あかがねプロジェクト～ふるさと新居浜を未来へつなぐ～」と題して活動報告を行った。

その後、秋田大学の海外鉱業研究会による発表が行われた。発表項目は、「秋田県の鉱山史」「秋田県の金属鉱山」「秋田県の石油工業の昔と今」「秋田県の金属リサイクル」の4件であった。いずれの内容もイラストや写真を多用して高校生向けに分かりやすく、また愛媛にちなんだエピソードも盛り込むなど、温かい心遣いを感じる内容であった。その後、質疑応答となり、大学生、高校生、さらには一般の方々からも次々と質問が繰り出され、大変積極的なやり取りが行われた。ただ、自分の地元についての質問については十分答えられない場面もあった。しかし、それがかえって自分の故郷を外から見つめる機会にすることができたと思う。ところで、大学生からは、地域と連携した取り組みが新鮮で、自分たちもそのような活動を取り入れたいとの感想や活動の活性化についてのヒントなどをいただく場面もあった。

最後に全員で記念写真を撮らせていただいた際、大学生と高校生がざっくばらんに交流できる場面ができ、時間が過ぎるのを忘れるほど交流が深まっていた。

今日の研修は、小学生、大学生、地元の方々との交流を通して、キャリア教育の実践にもつながった。特に、小学校の教員からは児童が視野を広げる絶好の機会になったと喜んでおられた。

今回の3泊4日に渡る東北現地研修は数多くの出逢を経験させていただいた。

充実した貴重な研修は、北秋田市教育委員会生涯学習課生涯学習係の松田淳子さんをはじめとして、多くの方の支えによって活動できたことは感謝の念に堪えない。

そして、けがや病気も無く安全に研修を終えられたのは、ご同行いただいた本校学校評議員の谷口淑子さん、新居浜市職員の皆様に様々な場面で助けていただいた賜物であった。

生徒には出発前後の自分の変化を振り返ることで、成長を実感して欲しいと考えている。そして、保護者や学校教職員の支えも忘れてはいけない。

この研修を通して得られた成果を部活動や普段の学校生活、自分の生活の中に活かして欲しい。



活動報告の様子



秋田大学の皆さんと記念写真

今後、得られた様々な情報を整理し、情報発信できるようまとめ、校内や地域での学習会や中学校への出前授業、活動パネル展などを通して、新居浜市に還元できるよう努力していく。そのことが、お世話になった方々へのご恩返しとなる。

今回の出逢いで結ばれた絆が今回のみにとどまるのではなく、遠い地ではあるが、いつの日かまたどこかで紡ぎ逢える日を創り出していきたい。

(3) 新居浜市船木公民館「銅の折鶴づくり」講座【7月27日】

船木公民館において夏休み子ども教室が開催され、船木小学校 1 年生から 6 年生までの児童や保護者 27 名が参加した。



折り方を教えている様子



完成記念にみんなで記念写真

ユネスコ部では出前授業として、別子銅山の歴史を紹介し、銅の折り鶴づくりを行

った。参加した児童の中には、別子銅山の歴史の紹介が始まる前から「広瀬幸平」「伊庭貞剛」などの名前が飛び出すなど、ふる里学習が定着してきていることに驚きを感じた。途中のクイズでも正解が続出していた。

銅の折り鶴づくりでは、銅版を慎重に一折一折し、少しずつ形になっていく様子に歓声を上げ、楽しく鶴を折り上げていった。また、ご両親や中には祖父母のご参加もあり、三世代交流を深めながら、和気あいあいと作業を進められる姿に心が温かくなった。そして、それぞれの想いのこもった世界にたった一つの銅の折り鶴が完成し、全員で記念写真を撮るなど、思い出に残る一日となった。

(4) 新居浜市シティブランド戦略ワークショップ【7月28日】

新居浜市地方創生推進室が主催し、新居浜市役所において、高校生を対象とした市民ワークショップが開催され、参加したのは、新居浜東高校および新居浜商業高校より各4名、本校からは11名の計19名であった。

今回のワークショップでは、新居浜シティブランド戦略の策定に向けて、具体的な作業を進める上で、現状分析や市民意識の把握などを行うことを目的としている。

今回の業務を委託されている株式会社博報堂のスタッフがファシリテータとなり、二つのグループに分けてグループインタビュー形式で進められた。



アイデアをまとめている様子



グループの代表が発表している様子

ワークショップは、前半を新居浜の現状、後半を新居浜の未来をテーマとした。

前半では、新居浜の「好き・嫌い」について、それぞれの思いをカードに書いて、ボードに貼り、その理由などを発表し合った。そして、出されたカードを祭りや歴史、教育などのカテゴリー別に分類してまとめた。その後、一旦全員で集まり、各班での話し合いの結果を代表者が発表し、お互いの考えを共有した。

後半では、新居浜を「こんなまちにしたい」について、同様にカードの記入や発表を行い、熟議を重ねた。最後にまた全員が集まり、情報を共有し合った。

今回のワークショップを通して、ふるさとについて改めて深く考え、新たな発見もできた機会となった。そして、学校は違っていても同じ市内に住む高校生同士が、一つのテーブルを囲んで、ふるさとをテーマに語り合える場ができたことは大変貴重で有意義であった。今後も、このような取り組みを継続していただきたいと思う。

(5) 海外高校生観光ガイド(マイントピア別子端出場・東平)【7月31日】

新居浜市内で開催された日本語スピーチコンテストに参加した16の国と地域から17名の海外高校生が別子銅山を観光し、ユネスコ委員とユネスコ部がその案内をさせていただいた。



昼食を楽しんでいる様子



英語版ガイドブックを配布している様子

マイントピア別子端出場ゾーン(以下、端出場)で海外高校生をお出迎えした。到着した一行は、昼食のためレストランに入り、昼食前にユネスコ部部長の寺尾遥さんが英語で歓迎のあいさつを行った。そして、海外高校生とユネスコ部員が交流しながら昼食を楽しんだ。

その後、2台のマイクロバスに分乗し、東平ゾーン(以下、東平)に向かった。海外高校生はお互いの共通語が日本語で、その道中では日本のアニメソングを合唱するなど、大変な盛り上がりであった。

東平に到着後、今回の為に作成した英語版のガイドブックと用意した銅鉱石をプレゼントし、とても喜んでいただいた。

最初に歴史資料館をご案内し、その中で最も興味を示してくれたのが、30kgもある俵を背負う「仲持ち体験」だった。たくさんの高校生が次々と体験していた。その後、「東洋のマチュピチュ」として脚光を浴びている貯鉱庫跡を見学して、そのスケールの大きさに圧倒されている様子であった。



施設の仕組みを説明している様子



全員で記念写真

東平での見学後は端出場に戻り、観光列車に乗り観光坑道を見学した。外の暑さに比べ、坑道内の涼しさにほっとした表情であった。

そして、私たちの説明に熱心に耳を傾け、積極的にコミュニケーションを取ってくれた。また、ここでも体験コーナーは大人気で、削岩機やポンプ、大きな石を持ち上げる体験など、時間が過ぎるのを忘れるほど楽しんでくれた。

お別れの際には、海外高校生のメッセージが書かれた色紙をプレゼントしていただいた。また、今後の交流にもつながるように、お互いの LINE 連絡先を交換するシーンも見られた。お互いにとって、非常に素晴らしい学びの機会となった。

(6) 平和の鐘を鳴らそう【8月6日】

新居浜ユネスコ協会が主催し、イオンモール新居浜のサウスコートにおいて「平和の鐘を鳴らそう」が開催された。この催しは、世界平和への願いを地域から発信するもので、今回で7回目となった。来賓として石川勝行新居浜市長、関福生新居浜市教育長、滝澤陽介イオンモール新居浜営業マネージャーが招かれた。

開会あいさつでは、青野正会長より「人種や国民性、文化の違いをお互いに認め合い、学びあって、手をつないで仲良くしましょう」とあいさつをされた。

その後、平和の鐘をつき、メッセージボードに平和への誓いを書いた。

また、新居浜市立西中学校の合唱部生徒 26 名が平和宣言を暗唱し、清らかな合唱を披露してくれた。

さらに、新居浜西高校書道部 12 人による書道パフォーマンスも行われ、会場を訪れた買い物客らは足を止め、音楽に合わせた統一感のある動きや筆さばきの迫力に魅了され、賞賛の拍手を贈っていた。

また8月6日は広島原爆忌でもあり、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」(ユネスコ憲章前文より) 平和への誓いを新たにしたりした日でもあった。



平和の鐘を鳴らす様子



私の平和宣言を書いている様子

(7) 別子銅山産業遺産創造塾【8月6日～8月7日】

一泊二日の日程で、新居浜市が主催する別子銅山産業遺産創造塾の3回目が開催された。別子ハイツ自然学習館を拠点にして、端出場、山根、鹿森などの各地区を講師の方々から現地をご案内していただくフィールドワークを中心に研修を行った。

1日目、午前中は、山根地区の別子銅山記念館において田尾邦雄館長さんより「別子銅山の歴史、住友企業の功績と現在」などについて、記念館の展示資料を説明していただきながらお話を伺った。別子銅山の約300年に及ぶ歴史を噛み砕いて分かりやすく解説いただき、先人たちの知恵や努力のすばらしさを感じることができた。

昼食を挟み、午後からは端出場地区のマイントピア別子に現存する産業遺産や観光坑道を観光ボランティアガイドで私たちがいつもお世話になっている谷口淑子さんが案内して下さった。谷口さんの勤勉さに裏打ちされた説明は大変興味深く、今後私たちがガイドを務める際の貴重な資料にもなった。

その後、山根地区へ戻り旧山根製錬所跡のえんとつ山へ登る予定であったが、雷雨のためやむなく中止となり、室内でえんとつ山倶楽部の方たちと懇談させていただくこととなった。これまでの活動の経緯やえんとつ山やその周辺の環境整備、世界遺産に向けた思いなどについて、熱くお話をいただいた。

夕食を挟み、夜はリージョナルデザイン株式会社の安孫子尚正さんより、まとめ学習として、ポスター作成について解説してくだり、各グループでのポスター作りに取り掛かった。



谷口淑子さんが説明される様子



えんとつ山倶楽部の皆さんと熟義の様子

2日目、午前中は鹿森地区へフィールドワークを行った。

鹿森社宅元住民の河野義隆さんに現地を案内していただきながら、現存している近代化産業遺産の説明や当時の人たちの暮らしぶりなどをお話いただき、当時の面影を現在の風景と重ね合わせて学ぶことができた。

午後は、鉱石運搬の施設「チップラー」について、河野さんが再現した模型を用いながら詳細に解説していただいた。貯鉱庫の仕組みについても模型を作成されるなど、目で見て体験して学べるように教材を作成されており、今後私たちも別子銅山の近代化産業遺産を再現するものづくりにも取り組めるヒントをいただくことができた。

その後、昨晚の続きでポスター作りを行い、二日間に渡った講座を終了した。

机上での学習だけではなく、フィールドワークで現地を訪問したり、鉱山体験者や最前線で活動されている方々との生きた学習を通して、本当の学びをさせていただいていると感じる。

8月19日には審査が行われる。お世話になった皆様へのご恩をお返しするべく、受講者全員の合格を目指す。



鹿森社宅跡を案内される河野義隆さん



西・南高校混成チームのポスター作りの様子

(8) 別子銅山近代化産業遺産創造塾 適正審査・認定証授与式【8月19日】

新居浜市役所において、今年度の別子銅山産業遺産創造塾の適性審査および認定証授与式が行われ、入塾生12人（新居浜南高校11名、新居浜西高校1名）全員が適性審査を合格し、石川勝行新居浜市長より認定証が一人一人に手渡された。

本塾は6月にスタートし、宿泊を伴った計4日間の研修を行った。本日その成果を試すために、筆記試験およびポスター発表による適性審査が行われた。

始めの筆記試験では、研修で学んだことを中心に出題され、難問もあったが全員が合格し、1名満点合格者も出た。

続いてのポスター発表では、研修中にグループごとに別子銅山の近代化産業遺産を活かしたまちづくりをテーマにポスター作成したものを市長や審査員の前でプレゼンテーションした。



プレゼンテーション審査の様子



市長さんと共に認定記念写真

適性審査の審査中、市長と懇談する特別な時間が設けられ、ポスターの内容をさらに詳しく話したり、高校生からの視点に立った提案や質問などをさせていただいた。始めは少し緊張した雰囲気であったが、市長の温かいリードにより、次第に柔らかい雰囲気となり、ざっくばらんなやり取りが行われ、冗談も飛び出すほどであった。提案の中には市長と高校生が同様の考えのものもあり、驚きとともに市長をさらに身近に感じる機会ともなった。

最後に、適性審査全員合格の発表があり、市長から認定証と記念の銅板プレートを授与され、記念撮影をさせていただいた。研修で学んだことを活かしていけるようシビックプライドを胸に、『第二の鷲尾勘解治』を目指す。

(9)「ふる里新居浜の誇り発見物語」展【8月20日～8月30日】

別子銅山記念図書館において、郷土の歴史や文化、先人の足跡をたどる「ふる里新居浜の誇り発見物語」展が開催された。

新居浜市まちおこし委員会が主催し、隔年で開催する企画で、9回目となる。

今回は、特に中世の瀬戸内海を支配した村上水軍の遺構が残る新居浜の大島に焦点を当て、別子銅山や多喜浜塩田の近代化産業遺産、郷土の誇れる先人、自然や食文化などを紹介する写真等約300点をパネル展示した。



展示会場内の様子



ガイドを務める部員の様子

ユネスコ部では、そのスタッフとして会場の準備や受付、館内の案内などを務めさせていただいた。また、来館者との対話と交流をもてる貴重な機会ともなった。中には、それぞれの分野に詳しい方もおられ、私たちが学ばせていただく機会も多くあった。さらには、夏休みの宿題を解決しようと訪れる親子連れの姿も多く見られた。

そして、熱心にメモを取る小中学生や資料をたくさん持ち帰っていた。この展示会がふるさと学習にとっても最適な機会ともなっていた。

来館者が一日中絶えることがなく、リピーターの方もおられるなど、市民の関心の高さをうかがうことができた。

これまで、展示会場は市郷土美術館で開催されてきたが、建物の老朽化により解体されることとなり、市立図書館での開催となった。展示会場となった多目的ホールは、講演会などでの使用は多いようだが、展示会場として利用するのは初めての事だ

とのこと。会場周辺は緑に包まれており、森の中の展示場のような落ち着いた空間となっている。期間中、2,100名を超える入場があった。

(10) 教員のための博物館の日2016【8月23日】

愛媛県総合科学博物館において、「教員のための博物館の日2016」が開催（同館主催）された。

その中で「東予の誇れる産業遺産（たから）」講習会（愛媛県東予地方局主催）が実施され、ユネスコ部員と部顧問が活動について発表させていただいた。

講習会は、東予管内の小・中学校における「ふるさと学習」の充実を図るとともに、別子銅山をはじめとした地域の産業遺産への理解を深めることにより、地元意識（シビックプライド）の醸成を図ることを目的としている。

東予地区の小・中学校さらには高校の教員約40名が参加された。

本講習会は2部構成となっていて、第1部は愛媛県総合博物館学芸課科学・産業研究グループの吉村久美子担当係長から「別子銅山」の産業遺産について、総括的に解説があった。



部顧問による活動発表の様子



部員による活動発表の様子

その後、私たちが発表させていただいた。はじめに、ユネスコ部員より、別子銅山の近代化産業遺産を地域の宝として学習・情報発信し、地域づくり活動を実践していること、部顧問からは学校現場での近代化産業遺産の活用事例について紹介や解説をさせていただいた。まとめとして、部員一人ひとりから、活動を通して自分が成長できたことについて発表させていただいた。参加者の中には、部員が小・中学校時代にお世話になった恩師の姿もあり、その活躍ぶりを喜んでいただくこともできた。そして、さっそく出前授業のご依頼もいただくなど、「学びの絆サイクル」の輪が広がり始めるチャンスのお機会ともなった。

(11) 別子銅山を読む解説講座「住友の歴史から」【9月3日】

別子銅山記念図書館において別子銅山を読む解説講座の今年度の3回目が開催された。

今回御紹介いただいた書籍は「住友の歴史から」（住友商事株式会社著）であった。

講師は元別子銅山文化遺産課長の坪井利一郎氏が務められた。

はじめに坪井氏から、本書籍は住友商事の職員研修用のテキストとしてまとめられたもので、別子銅山についてこんなにコンパクトにまとめられた冊子はないとご紹介があった。コンパクトながら、歴代の総理事も網羅され、最も良いテキストと評された。



講演される坪井利一郎氏



講演を拝聴する生徒たち

坪井氏は、平成 10 年に南米ボリビアのサンクリストバス鉱山の関係者を旧別子へご案内されたのが契機となり、住友商事の職員研修の現地案内を 7 年務められている。昨年は銅山峰まで 12 回登山されたとのことで、社員は事前学習としてこの冊子を読んでから登山されるそうである。

本冊子は、昭和 52 年 1 月から昭和 54 年 3 月の期間、住友商事の社内ニュースに 12 回掲載されたものを、昭和 54 年 12 月に本として発刊された。その後、平成 17 年 12 月に改定され、現在に至っている。

加えて、初代住友家による文殊院旨意書の説明や別子銅山開坑 200 年（明治 23 年 [1890]）を記念に作成された版画「別子銅山図」に記されている「別子銅山の記」についても詳細で分かりやすく解説をいただくなど、大変貴重な講座となった。

（12）ペルー駐日大使、チンチェロ市長の別子銅山視察ご案内【9月10日】

ペルー駐日大使エルラド・エスカラ氏 チンチェロ市長グアルベルト・サジョ・ウアルパユンカ氏が別子銅山の東平を視察され、ユネスコ部員がご案内させていただいた。ご案内役を務めたのは部長の寺尾遥さんと副部長の永易舞さんであった。

9月10日から10月18日までの期間、あかがねミュージアムにおいて「大アンデス文明展～東洋のマチュピチュの麓にて～」が開催されることとなり、両氏が来市された。

エルラド氏は 2013、2015 年に続き 3 度目、グアルベルト氏は初めての来市となった。朝 9 時にあかがねミュージアムでお二人をお向かえした。ちょうど、ミュージアムの正面玄関芝生広場には、ペルーを代表するアルパカが来ており、記念撮影をした。さながらここがペルースポットになったようであった。



あかがねミュージアム前で記念写真



第三通洞について説明している様子

その後、ジャンボタクシーで東平へ向かった。

最初に第三地区を訪れ、第三通洞をご覧いただいた。東平視察三度目となるエルラド氏もこの場所は初めて訪れる場所であった。

ところで、この第三地区に採鉱本部が置かれたのが大正5年（1916）で、今年がちょうど100年目となる。このような節目の年に、お二人をこの場所にお迎えできたことは、とても意義深いことだと思う。

さらに、旧第三変電所、火薬庫跡などもご案内させていただいた。そして、東平歴史資料館へ移動し、東平紹介のビデオをご覧いただいた後、館内の展示物についてご案内させていただいた。時折クイズも出題させていただき、楽しみながらご覧いただくことができた。

また、両氏はそれぞれの展示物を興味深くご覧になり、グアルベルト氏は30キログラムの荷物を担ぐ仲持体験も楽しまれた。



「東洋のマチュピチュ」の前で記念撮影



英語版のガイドブックをプレゼント

そして、いよいよ『東洋のマチュピチュ』をご案内させていただきました。両氏とも熱心に部員たちの説明を興味深くお聴きくださった。その際、部員たちがマチュピチュを訪れて、世界遺産登録に至った経緯や関係者にお逢いしたいとのご質問をさせていただくと、その時には当地の文化庁等の関係者を紹介して下さるとの光栄なお話までいただいた。

その後、マイントピア別子に移動し、昼食まで一緒にさせていただいた。その際に、日本からマチュピチュまで行くのにかかる時間や観光に良い時期、チンチェロ市の人口、エスカラ氏が日本で好きな食べ物、グアルベルト氏が来日された回数、私たちの進路の話題まで、ゆったりとしたお時間を一緒にさせていただくことができた。

ガルベルト氏からは、チンチェロ市に来られたら、町をあげて歓迎くださるとの嬉しいお言葉までいただいた。

最後に、部員たちの制作した英語版のガイドブックをお土産にプレゼントし、とても喜んでいただいた。こんなにも充実した貴重な機会をいただくことができ、感激で胸がいっぱいである。このような素晴らしいチャンスをくださった新居浜市関係者の皆様に心より感謝申し上げます。いつの日か、本物のマチュピチュへ行きたいと思う。

(13) 惣開公民館 観月会【9月17日】

惣開公民館主催による観月会が開催された。昨年に続き、2回目の開催となった。

ユネスコ部は「そうびらき未来への鉱脈」と題して、別子銅山が始まった山中から星越・惣開地区に至る歴史についてクイズを交えながら発表させていただいた。昨年に引き続き、ユネスコ部員の2年次生7名が参加させていただいた。



いもだきをいただいている様子



グラウンドでの発表の様子

惣開公民館に到着後、まずは恒例の芋炊きをご馳走になった。今年も発表の舞台は小学校のグラウンドであった。今年は大型トラックに設置されたスクリーンに投影しながら発表となった。発表には、惣開地区住民の方がたくさんお越しくださり、興味深々で熱心にご覧いただいた。クイズの際には、小学生が元気よく答えてくれた。発表の後は、観月会のお世話をされていて本校卒業生でもある伊藤泰さんが制作されたビデオが上映され、私たちの発表の振り返りをしながら、別子銅山が惣開地区に果たした役割を住民の皆さんに改めて知っていただいた。

今年は、あいにくの空模様でお月様を見ることはできなかったが、フィナーレには、小学生の明るく元気なダンスや、大仕掛けの花火が打ち上げられるなど、昨年にも増して盛大な観月会となった。来年度もぜひ参加させていただき、さらに工夫を重ねて、より別子銅山を楽しく学んでいただく内容にしたい。惣開公民館の皆様には、今年も貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。

(14) 角野小学校 5年生登山事前学習【9月23日】

新居浜市立角野小学校の5年生児童100名を対象に出前授業を行った。今回、角野小学校のESDの取り組みとして、別子銅山への登山学習が予定されたことを受け、ユネスコ部の2年次生7名が小学校を訪問させていただいた。

普段行っている中学生向けのプレゼンテーション「BESSHI QUEST」を小学生向けに改良して実施した。

別子銅山を探検しながらのプレゼンテーションを児童の皆さん全員が熱い視線で説明を聞いてくださり、質問やクイズにも大きな明るい声で答えてくれたおかげで、大変楽しく別子銅山を学ぶことができた。ただ、私たちのほうが当初予定していた時間より、プレゼンテーションが早く終わってしまうというハプニングもあり、学習の振り返りクイズなどで時間調整を何とか図る工夫をしましたが悔いの残る結果となってしまった。児童の皆さんには今日の学びを実際の登山の際に活かして、安全で楽しい学習にしてほしいと思う。私たちは、今回のことを次に活かせるよう、様々な対策を練りたい。



元気よく手を挙げる児童の様子

(15) 夏井いつき 俳句 ing Walking in 東平【10月2日】

夏井いつきさんの俳句ライブ（新居浜市観光協会主催）が東平で開催され、約140名が参加された。この句会ライブは昨年からはまり、今年で2回目となった。

その参加者のご案内をユネスコ部員、ユネスコ委員、課題研究で別子銅山を学んでいる生徒、ボランティア生徒といった編成で総勢9名が担当させていただいた。



夏井いつきさんと記念撮影



生徒がガイドしている様子

課題研究の生徒などは、ガイドが初めてとなることから、事前に現地研修を行い、ガイド内容を作成してユネスコ部員からアドバイスをもらうなど準備を進めてきた。

今年の東平は、心配していた雨に降られることはなかったが、霧の多い中での開催

となった。

始めに、夏井いつきさんから俳句の作り方についてポイントを分かりやすく教えていただいた後、6班に分かれて出発した。

今年の案内は、あらかじめ各ポイントに待機してご案内をさせていただくスタイルとした。始めは戸惑いもありましたが、回を重ねるうちにだんだん慣れてきて、お客さんの温かい助けもいただき、何とか務めを果たすことができた。

昼食後、マイントピア別子にて開催された句会ライブでは、夏井さんが選ばれた句が紹介された。その中には、高校生のガイドをヒントに詠でいただいたものも多く、とても光栄でやりがいや大きな達成感があった。

不安いっぱいの中でのチャレンジでしたが、それぞれが自分の持てる力を精いっぱい出し切ってくれたことが、この成果につながった。そして、来年度本校が地域共創系列を立ち上げていく中で、大変意義のある実践につながったと思う。

(16) 別子銅山モニターツアー【10月8日】

愛媛県東予地方局と新居浜市が主催した別子銅山モニターツアーが初めて開催され、愛媛大学22名、外国人留学生10名が参加した。



山根地区でのガイドの様子



マイントピアでのガイドの様子

そのツアーの山根地区と端出場地区のご案内をユネスコ部が務めた。

始めに、ご一行を山根公園でお出迎えをさせていただいた。

開会式では、東予地方局地域政策課の山本泰士課長さんのごあいさつが流暢な英語で行われた。

そして、私たちが作成した日本語と英語版の二か国版ツアーブックを配布させていただき、自己紹介と副部長の永易舞さんによる手製のパネルを使ったユネスコ部の活動紹介を行った。そして、いよいよガイドが開始、山根地区では、山根製錬所跡の煙突や山根グラウンド、別子銅山記念館などについて紹介させていただいた。

その後、学生の皆さんと一緒にバスに便乗させていただき、マイントピア別子へ向かった。バスの中では、大学生活や自分たちの高校生活、さらには進路などについてもお話しができ、貴重な機会ともなった。

マイントピア到着後、さっそく観光坑道をご案内させていただいた。皆さんは私た

ちの説明に熱心にメモを取られたり、積極的に質問してくださったり、写真を撮影された。皆さんが真摯に学ぶ姿は、私たちにとって大変やりがいを感じることができた。また、その姿を拝見して、私たちも多くのことを学ばせていただいた。

さらに、今回新居浜ガイドクラブの方たちも案内を務められ、新居浜市には外国の方への案内も充実していることも知ることができた。将来は、私たちも外国語で少しでもご案内できるようさらに学んで行きたいと強く感じた。

(17) 中高連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立川東中学校【10月21日】

新居浜市立川東中学校体育館において、1年生191名を対象に別子銅山登山事前学習を行った。2年次生のユネスコ部員7名が講師を務めさせていただいた。



自己紹介の様子



出前授業の様子

川東中学校は新居浜市内で最も生徒数が多い学校である。皆さん体育館に整然と並ばれ、私たちの説明やプレゼンテーションの画面を食い入るように熱心に見てくれていた。また、クイズや質問にも積極的に参加し、楽しく別子銅山について学んでくれた。最後に、今回リーダーを務めてくれた生徒から「分かりやすい説明で、登山が楽しみです。」と感想をいただいた。

また、校長先生も全ての発表をご覧ください、「ハチや蛇などの対処方法なども入れてくれていたので良かった。」との感想や「今後もユネスコスクール同士の連携をさらに深めて行きたい。」との光栄なお話もいただいた。

(18) 「ライフスタディⅡ」課題研究

『あかがねの道～別子銅山の先人達の生き様からESDを学ぶ～』

愛媛県総合科学博物館【10月25日】

3年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」において課題研究が行われた。

総合分野では7回目のフィールドワークとして愛媛県総合科学博物館を訪れた。

博物館の屋外展示場には、四阪島で稼動していたGF転炉やからみ電車の実物が保存されている。本物を目の前にして、稼動時の様子を想像しながら見学した。転炉の大きさに圧倒されたり、からみ電車の敷石にからみが使われていたり、面白い発見もあった。からみの中にはまだ銅成分が含まれて緑青が現われているもあり、驚いた。

さらに、館内の常設展も見学させていただいた。別子銅山のコーナーでは、ダイナマイトを仕掛けてあるジオラマの迫りに釘付けになり、その様子から先人の苦労や知恵を知ることができた。



G F 転炉見学の様子



ジオラマの見学の様子

(19) 別子山自然フォーラム【10月30日】

新居浜市別子山において別子山自然フォーラム（同実行委員会主催）が開催され、ユネスコ部員2年次生7名が参加した。

晴天に恵まれ、遅めの紅葉を始めた別子の山々も展望できる中、午前中は別子山森林公園ゆらぎの森で開催された自然植物観察会へ参加させていただいた。地元だけではなく、高知県からも小型バスをチャーターして団体の方々が多数参加されるなど、たいへん盛況に開催された。

自然観察指導員の神野幸正氏が案内役を務められ、広島国際大学医療栄養学部教授の神田博史先生に解説していただく中、1時間余りかけて景観を楽しみながらゆったりと観察して行った。そして、園内の草木の名称や特徴についてユーモアを交えながら分かりやすく紹介していただき、驚きや発見の連続であった。特に、草木の名称の由来には文化があるとのことのお話は大きな発見があり、先人の知恵の結晶だと感動した。少し、植物博士になれた気分であった。

午後からは、別子山公民館において特別講演会が開催された。

講演会に先立ち、開会あいさつで、実行委員会委員長の和田輝世伸氏より「別子山村が新居浜市と合併して13年半、当時より人口が100名近く減少し、現在163名となり、80歳以上の高齢者も38名となった。そのような中で、平成26年からはメイプルシロップや高麗ニンジンなどの栽培などを始めた。今回のフォーラムを通して、別子山の自然や産業遺産の活用への一歩としたい。」とのことをお話をいただいた。

続いて、石川勝行新居浜市長から、「これまでも、様々な取組をされているが、今回のフォーラムをヒントにして、さらなる別子山の地域再生に尽力していただきたい。」との祝辞が述べられた。

その後、三つの特別講演が行われ、一つ目は「オタネニンジン（生薬人参）の話」として、(国)医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター客員教授の柴

田敏郎先生のご講演があった。生薬人参の流通状況やオタネニンジンの国内での栽培状況やその技術、中国での栽培の様子なども紹介くださり、別子山での栽培についての期待や今後のことについてのご示唆をいただいた。

二つ目は、午前中の自然植物観察会でもお世話になった、神田博史先生による「別子は笑葉でガッチリ健康寿命」としてご講演いただいた。先生は、健康寿命や食生活や風土などの生活習慣の大切さ、徳川家康の長寿法、漢方医療など様々なお話をユーモアたっぷりにお話され、会場を笑いの渦に巻き込まれ、楽しくて分かりやすくお話しくださった。

最後は、「赤石山系の植物」として愛媛県総合科学博物館学芸員の川又明憲先生がご講演された。特に、ツガザクラのお話は、今年から保護活動に取り組んでいる私たちにとって、大変貴重な機会となり、今後の活動に活かさせていただけるものとなった。また、先生の研究されている地衣類について、「別子山の地衣類は、県下で最も多い場所である。」とのお話は、別子山のさらなる宝物が増えたように感じた。地衣類そのものの研究も併せて、今後さらなる可能性を感じる事ができた。

今回のフォーラムに参加させていただき、別子山地区の方々皆さんが、まちづくりに熱い情熱を注ぎこまれていることがよく分かった。今回のことをきっかけに、私たちにとってどのようなことがさせていただけるのか、考えて行きたいと思う。



自然植物観察会の様子



特別講演会の様子

(20) 東京大学大学院教育研究科教授 牧野篤先生 講演及びスキルを磨く研修

【11月17日】

新居浜南高校体育館において、「つながる・つくる・暮らし楽しむ～若者が主役のまちづくりと生涯学習～」と題して、全校生徒 354 名、教職員、保護者、地域住民等を対象に講演をいただいた。

現在の社会が抱える課題として「高齢化」「少子化」「人口減少」を示され、過去の量的なモデルにしがみついていることが問題だと指摘、これからの「社会」の大きなテーマはソーシャル：The Social（社会的）であることで、若者の役割についてお話いただきました。牧野先生が実践されている「日本再発信！若者よ田舎をめざそうプロジェクト」や富良野緑峰高校等の取組について具体的な事例をお話いただいた。

放課後は、講演を受けて、ユネスコ部員とのスキルを磨く研修も行っていただいた。その際には、新居浜市教育委員会の関福生教育長もご同席いただき、アドバイスをいただいた。部員たちは、自分たちの取組の意義や価値について気付くことができていた様子であった。そして、部員たちはユネスコ部の活動の重要性を認識して活動に取り組もうと気持ちを新たにすることができていた。

本校では、来年度より新系列として「地域共創」系列を立ち上げる。若者が地域と関わることで、持続可能な地域を創るためのヒントを沢山いただくことができた。



講演会の様子



スキルを磨く研修の様子

(21) 第1回「百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会」【12月6日】

首長部局17名、学校・企業・団体等の関係者12名の計29名で組織した初めてのCP委員会を新居浜南高校会議室において開催した。

ア 開催日時 平成28年12月6日(火) 15:00~16:30

イ 開催場所 愛媛県立新居浜南校高等学校 会議室

ウ 会次第

15:00~15:20 開会式

あいさつ 新居浜市教育委員会教育長 関 福生
愛媛県立新居浜南高等学校長 村上敏之

委員自己紹介

15:20~15:50 事業概要ならびに活動経過報告

15:50~16:20 質疑応答

16:20~16:30 閉会式

開会式において、関福生教育長から「この事業は、今まで進めてきたユネスコスクールやESDの学びなどを将来にわたって長くつなげていくための1つの仕組みである。新居浜南高校は、情報科学部からユネスコ部を経て、来年度は地域共創系列という新しい学びが進んでいくような取り組みを積み重ねてき。はじめは、コンピュータの世界の中で情報を世界へ発信するという取り組みを進めていたが、それが別子銅山

からいろいろなところに波及し、市民を巻き込んだ1つの新しい波がこの中にうねっているのではないかなと感じる。新居浜市として、高校生の若い力をまちづくりの中に生かしていくという視点も非常に大事なことだと思う。今回、さまざまな新居浜市の各分野で活動されている方々がこの中に加わってくれることによって、そして鳴門教育大学の近森先生をはじめとするいろいろな知見を得られることによって、ますます新居浜南高校の今までの活動が素晴らしい新居浜をつくっていく礎になることを願っている。おそらく、この事業は来年度も継続していくと思うが、新居浜南高校を1つの核にして、新しい新居浜づくりのきっかけづくりの場になれば素晴らしいと願っている。新居浜市役所の職員もつながっていくことが自分の仕事を考える上でも大きな意義を持ってくると思うので、こういったものを1つのきっかけにして、よりいいネットワークづくりができるようなそんな新居浜市役所にしていければいいなと思っている。」とごあいさついただいた。

実践校である新居浜南高校の村上敏之校長から「多数の皆様方のご出席いただき、第1回シビックプライド創造委員会が開催できますこと大変光栄に思う。ご案内のように、本事業につきましては新居浜市から多大のご援助をいただき、地域の皆様にも密接な関係を持たせていただきながら、さまざまなことを展開してきた。ユネスコ部は秋田へ研修視察を行った。さらに地域との様々なつながりを持った活動も活発化してきた。本校では、来年度から地域共創系列を設置することを愛媛県教育委員会から承認され、学校の授業の中で、カリキュラムの中でESD、あるいは地域貢献型学習、地域体験型学習を学べるようなカリキュラムになる。そして、同じく文部科学省からの委託事業である「ESD形成事業輝けサステナブルスクール事業」に7月に応募したところ、9月に認定を受け、向こう3年間活動を行う。さらに、ESDユネスコスクールとしての様々な活動を展開してまいりたいと考えている。皆様からは様々なご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。」とごあいさついただいた。

その後、新居浜南高校総合学科課長の河野義知教諭より事業概要や現在までの活動経過について報告がなされた。

質疑応答の中で特に、鳴門教育大学特命教授の近森憲助先生から「非常に多様な活動をされていることは、以前から存じ上げていたが、かなり活発に新居浜市内だけではなく、新居浜市外へも行き、学びを広げているということをお聞きして改めて感服している。教育学から考えると、これまでの取組による効果ということで、「視野の広がりやコミュニケーション能力が高められた」、「シビックプライド（愛着心や誇り）が芽生え始めてきた」、「まちづくりへと意識が深化してきた」などの効果は出てきていることは、感じられていると思うが、例えば、高校生として、一般の教科（理科、英語、数学など）への波及効果はどうだろうか。新居浜南高校の1つの特徴として、本事業は非常に重要な活動ではありますが、一方で高校生として身につけておくべき基礎的な知識やそれらを学ぶ意欲へうまくポジティブにどう影響を与えているのだろうか。高校教育の全体として、こういった効果が生まれているのかという視点も、実際に担当されている先生方に持っていただけたらと思う。一般教科のテストの成績や授業態度、欠席日数の減少、遅刻早退の減少など、一般的な態度変容・学力変化につ

いても同時にデータをとると良いと思う。そうすることで、校内の先生方の意識が変わってくるのではないだろうか。以前は、ユネスコ部がメインで活動している事業で、E S Dなどについて、特別なものとしてしか捉えられてないような状況の中で、例えば、一般的な教育活動の中に良い効果を与えるんだということを実証的に。すべての先生方が「生徒が変わってきたな」という感覚が出てくると、学校全体としてだんだんと上へ向いていくのではないだろうか。ユネスコ部の活動が突出していることだけが新居浜南高校の特徴と言われるだけではなく、全体として学校教育の質が上がってきているというようなところを今後見ていただけたらいいかなと思う。スポーツでもウエイトリフティングなど良い成績があり、全体として新居浜南高校のいろいろな活動をすべて改善され、発展してきている状況が実際に見えてくると、他の高校あるいは小中学校、そういったところにも非常に良い効果が出てきて、全体として新居浜市の学校教育活動が発展していく1つの良いモデルを提供していただければなと思う。全国的に見ても、E S Dやユネスコスクールになったことをきっかけにして、学校中の状況が非常に改善されてきた事例が結構ある。私としては非常に理想的だなと思っている。そういった活動をしていくわけだから、その活動だけではなく、全体として生徒がどう変わってきているのかということを見ていただけたらなと思う。」とアドバイスをいただいた。



関福生教育長あいさつの様子



村上敏之校長あいさつの様子



近森憲助先生アドバイスの様子



会場全体の様子

(22) 高校生と一緒に別子銅山を探検しよう！ in 角野【12月16日】

新居浜市角野公民館が主催して、角野小学校6年生114名が学校周辺にある別子銅山の産業遺産を高校生と一緒に巡った。

この取組は、今年で12年目となる。案内役は、本校ユネスコ部員10名が務めた。また、道中の安全見守りとして、ユネスコ委員、別子銅山をテーマに課題研究や図書館学習会に参加している生徒など6名がボランティアで参加してくれた。さらには、角野地区のみなさんも見守り隊としてご参加くださり、世代を超えた交流の機会となった。



えんつつ山に登る様子



水処理実験の様子

4つの班で学校を出発し、山根収銅所やえんつつ山（山根製錬所跡煙突）、山根グラウンド、別子銅山記念館などを巡った。小学生は高校生の案内に興味深く聴き入っていた。特に、山根収銅所での水処理の実験では、身を乗り出すように熱心に説明を聴いていた。高校生と小学生、見守り隊の皆さんとお互いに会話が弾み、楽しく学びを深めることができた。

予定を越えた2時間余りのフィールドワークとなったが、ボランティアの高校生や見守り隊の皆さんのおかげで、みんな元気で無事に終えることができた。

(23) ユネスコ部台湾視察交流事業【12月18日～12月21日】

新居浜ユネスコ協会主催によりユネスコ部員を台湾へ派遣する視察交流事業が開催された。

ユネスコ部員の寺尾遥さん、谷下華さん、永易舞さん、顧問の河野義知教諭が派遣され、新居浜ユネスコ協会からは、会長の青野正氏を始め、副会長で愛媛県議会議員の古川拓哉氏、会員の小野正師氏、武田松人氏、尾藤一彦氏、吉田達哉氏にご同行いただいた。また、本校同窓会である南嶺会のご支援もいただいた。

目的は、台湾の高校生との交流や鉱山の跡地、人気観光スポットを訪れるなど、台湾の風土や文化を自分たちの肌で感じることであった。

初日、生徒たちは初めての海外旅行で楽しみと不安が半分半分といった面持ちであった。広島空港での出国手続きでは、多少手間取った場面もあったが、無事にフライトすることができた。台湾の桃園空港へは約二時間の飛行時間であった。思ったより

近く、また時差も一時間ほどで、台湾を身近に感じることができた。

空港からはバスで移動した。車窓からの風景でまず飛び込んできたのが漢字で書かれた様々な看板であった。近代的な建物と昔ながらの原風景が同居するなど、なんとなく昔の懐かしい風景に感じた。

台北のホテル到着後、町並みを散策し、台北市最古の仏教と道教の寺廟（神社）で1738年に建立された龍山寺を訪れ、独自の宗教世界に触れることができた。その後、台北101（台北国際金融ビル）を見学、ちょうどクリスマスの飾り付けがなされ、多くの人々が訪れ華やかな雰囲気であった。このビルは高さ508メートルあり、2004年から2008年までは世界一の高さを誇っていた。最上階までのエレベータは大変な込みようで、残念ながら登ることはできなかったが、生徒たちは海外での初めてのショッピングを思う存分楽しむことができていた。夕食は、生徒にとって初めてのテーブル式で中国料理をいただいた。



ユネスコ部台湾視察交流関係者



龍山寺にて

2日目は、国立鹿港高級中学（以下、鹿港高校）との交流であった。台北駅から新幹線で約50分かけて台中駅へ、さらにタクシーに乗り換え、約50分かけて到着した。正門では先生方や生徒たちが歓迎の横断幕を掲げて出迎えてくださった。

鹿港は、かつて台湾第二位といわれた港町で、鹿港高校は町唯一の高校である。生徒数は約1400名で、校舎もエレベータが完備され、校舎建物内には大きな庭があるなど、近代的で大規模な高校であった。

今回、鹿港高校との交流については、愛媛県の国際交流課に推薦していただき、大変お世話になった。

また、台湾の高校で日本語の教師をなさっている林美琴さんに通訳をしていただき、きめ細やかなご配慮のおかげで、両校の交流事業がスムーズに行え、素晴らしい友好の架け橋となってくださった。

初めに、林宣賢校長先生から、「今回のことをチャンスにして交流を深めて行きたい」とごあいさつをいただいた。そして、新居浜太鼓祭りの刺繍を記念品としてお渡しさせていただいた。台湾の方が好まれる赤地に金の刺繍を施したものでしたので、大変喜んでいただけた。

その後、林校長先生から学校の概要や特徴的な取り組みなどについてご紹介いただ

いた。そして、本校生徒から、愛媛県、新居浜市、別子銅山や本校の取り組みについて発表させていただいた。

校内見学では、鹿港高校の生徒が案内してくれた。図書館をはじめ、水産養殖科、商業経営科、国際貿易科、自動車科などであった。それぞれの場所で、生徒の皆さんが温かく迎えてくださり、各自で育てている魚の説明やレジ打ちの体験などをさせていただいた。また、芸術陣頭部の皆さんからは、伝統的な踊りをご披露いただいた。当日は日差しが強く暑い中にもかかわらず、私たちが訪れるのをグラウンドで衣装姿のまま待ってくださっていた。いざその踊りが始まると、張り詰めた空気の中で、力強い舞をご披露くださり、その晴らしさに圧倒され感動の連続であった。

見学後は、昼食となり、学校のB級グルメといわれる給食をいただいた。その際に、両校の生徒同士での校歌を披露し、LINEの交換をするなど、親睦を深める時間もあり、ネットを通じて今も交流が続いている。

そして、学校を出て、古跡解説部の生徒から町の史跡を案内していただいた。とても熱心に勉強しており、興味深い話を聴くことができた。原稿ではなく、身振り手振りでガイドしている姿に感動し、良い刺激を受けることができた。



校舎前で記念撮影



交流記念品贈呈の様子



芸術陣頭部の皆さんと



古跡解説部員が解説している様子

3日目は、鉱山観光地を中心とした見学を行った。

この日は、観光ガイドを務めていただいたのは王賛福さんであった。日本語はもちろん英語も堪能で、特に日本文化にも詳しい方であった。王さんのガイド振りからは、お互いの文化を理解していることの大切さを教えていただいた。

始めに訪れたのは、台湾最大の滝である十分の瀑布であった。落差約 20 メートル、幅約 40 メートルもの自然が作り出した壮大な瀧の大きさに圧倒され、しばらくその景色に魅了された。また、この場所は、かつて炭鉱としても栄えた場所で、石炭を積んだトロッコの展示もあり、近くには鉱山鉄道の跡を利用した旅客用鉄道も走っていた。さらに、十分で有名な観光であるランタンを飛ばす体験もした。平和を象徴する青色のランタンにみんなの幸せの願いをこめて、晴れ渡った空へ勢いよく飛ばすことができた。

次に訪れたのは、猴どう炭鉱博物館であった。ここもかつて炭鉱の町であった。当時の建物がそのまま残されており、迫力のある風景であった。資料館には、精巧なジオラマも展示され、過去と現在を比較しながら学べるようになっていた。そして、ユニークなのは猫村と呼ばれるほど猫が多く、猫小屋や猫の休憩所、猫飛び出し注意の道路標識もあるほどの徹底ぶり、多くの人が猫と戯れていた。近代化産業遺産と猫のコラボが素晴らしいアイデアであった。

その後、九份へ向かった。ここは、日本統治時代に金鉱で栄えた街で、ジブリ映画「千と千尋の神隠し」にも登場した日本でも有名な場所。狭い路地沿いにみやげ物店や食べ物店が並び、台湾で最も古い映画館まであり、多くの人であふれかえっていた。そして、最後に訪れたのが、黄金博物館であった。当時の施設を活用したおしゃれなカフェやレストランもあり、女性客が多く見られた。資料館では、当時の写真や工具などの展示に加え、当時の体験者のビデオが放映されており、日本語で「荒城の月」を歌われるシーンは心が震えた。観光坑道の見学では、当時の坑道が使用されており、入坑前にビデオで学習し、入坑時にもヘルメットをかぶるという徹底した体験型となっており、新居浜でも活用できる点が多く見つけられた。

夜は、士林市場の夜市へ出かけ、屋台での食事や買い物など、台湾の文化をさらに深く体験することができた。



ランタン飛ばし体験



九份の町並みを背景に



黄金博物館の観光坑道にて



国立故宮博物院にて

最終日は、世界四大美術館のひとつといわれる国立故宮博物院を見学した。中国の宮殿を模した建物で、中国の歴史を伝える美術品や文物など総数 60 万点余りが収蔵されている。1 日では見て回れないほどの展示がある上、一度に展示できないため、半年に 1 回展示内容が変わるという驚くべき美術館であった。また、その展示物一つ一つが素晴らしいものばかりで、有名な翠玉白菜を見ることができた。さらに驚いたのは、象牙多層球で、球の中にさらに球の彫刻が施され、二十四層にもなるとのこと。これには人間の芸術性と技術力の高さにただ驚くばかりであった。

今回の研修を終え、台湾の文化や歴史に直接触れ、多くの方たちとの出逢いも経験させていただいた。日本の統治時代もあることから、日本語もあちこちで使用され、コミュニケーションもスムーズに行うことができた。親日の方が多く、みなさん温かく優しく私たちを受け入れてくださった。日本でここまでのおもてなしができるのかと、強く感じるほどであった。特に、鹿港高校の先生方や生徒の皆さんには交流のためのご準備が大変だっただろうと拝察した。

特に、寺尾さん、谷下さん、永易さんは初めての海外旅行の中で、様々な貴重な経験をさせていただいたことは、今後の人生にとって宝物となることと思う。

今後、鹿港高校との交流を継続する中で、本校のより多くの生徒が関わりを持てるようになり、将来は姉妹校として共に発展できるように尽力して行きたいと思う。

改めてこのような貴重な機会をいただいた、新居浜ユネスコ協会、南嶺会の皆様にお礼を申し上げます。

(24) 鉾石の道推進協議会先進地視察【12月26日～12月27日】

2 日間の日程で、鉾石の道推進協議会事務局からお二人の方が別子銅山を視察されるため、兵庫県但馬県民局地域政策室地域づくり課の谷明彦氏、朝来市朝来支所地域振興課の松島豊氏のお二人がご来市された。

兵庫県にある明延鉾山、神子畑鉾山、生野鉾山の三つのエリアは、平成 16 年に「鉾石の道」と命名され、平成 19 年には経済産業省の近代化産業遺産群に認定されている。そして現在は「鉾石の道」の日本遺産登録を目指されている。

1 日目は、始めにマイントピア別子端出場ゾーンを中心にご視察された。ユネスコ

部員が観光坑道をご案内させていただいた。

部員が持ち場を分担して、パネルを用いたりクイズを出題するなど工夫してご案内させていただいた。また、内除鉄橋や第四通洞などもご案内させていただいた。お二人は、私たちの説明を大変熱心にお聴きくださった。

昼食後、本校にもお立ち寄りいただいた。本校では、私たちのこれまでの活動のご報告もさせていただいた。また、日ごろの活動のことについてご質問いただいたり、お二人が取り組まれている鉱石の道推進協議会の取組についてもお聞きさせていただき、楽しく貴重な時間を過ごすことができ 1 日目を終えた。



観光坑道内のガイドの様子



旧端出場水力発電所見学の様子

2 日目、お二人は始めに新居浜市別子銅山文化遺産課を訪問され、課長の秦野親史氏より、新居浜市の取組についてご紹介をいただいた。

その後、旧端出場水力発電所内部を特別公開していただき、じっくりとご視察いただいた。本施設は現在一般公開に向けて準備が進められているが、あと 3 年はかかる見通しとのこと。

その後、別子銅山記念館を視察され、昨年 11 月に新しく館長にご就任された永井誠司氏より、別子銅山の歴史を紐解きながら展示品を説明され、館内をご案内いただいた。

お昼を挟んで午後からは、広瀬歴史記念館・旧広瀬邸を視察された。

広瀬歴史記念館では、久葉裕可館長より広瀬幸平の生い立ちと別子銅山の近代化が果たした役割などについて展示品を説明され、館内をご案内いただいた。

その後、旧広瀬邸はユネスコ部員がご案内させていただいた。ここでも、解説ポイントごとに部員同士で連携してご案内させていただいた。

最後に、星越地区に移動し、星越駅舎、星越選鉱場跡を見学し、さらに、元住友共電社長宅や元住友共電社監査役宅も秦野課長のご配慮で特別に公開していただき、内部を見学することができた。

この日はユネスコ部員にとっても、じっくりと学びを深める貴重な機会となった。今後は、この度のご縁を大切にさせていただき、私たちが現地を視察させていただくなど、相互交流の機会も図って行きたいと思う。

(25) 「平成28年度地域とともに生き地域とともに歩む高校生育成事業」

プレゼンテーション審査会【1月24日】



プレゼンテーションの様子



審査員より質問を受けている様子

「平成28年度地域とともに生き地域とともに歩む高校生育成事業」のプレゼンテーション審査会が松山市のにぎたつ会館で開催された。

愛媛県教育委員会主催による今年度より始めた事業で、県内全ての県立高校から地域資源を活用した魅力ある学校づくりのプランを募集し、書類審査を通過した16プランが、今回の最終審査であるプレゼンテーションを行った。特に、このプレゼンテーションはこれまでにない試みとして、教員と生徒による発表で行われた。

本校からは、「別子銅山近代化産業遺産ガイドブック制作プロジェクト」のプランを作成し、発表した。村上敏之校長先生と本校からの代表生徒である2年次の田中陸矢君、堤優弥君、加藤文音さん、古川若奈さんが6名の審査員の前でプレゼンテーションを行った。発表はトップバッターということで、会場全体が大きな緊張感に包まれる中でしたが、村上校長先生のリードと生徒たちの練習の成果が十分に発揮され、これまでで最高の内容であった。なお、審査の結果は2月中に発表の予定。16プラン中8プランが採用される。

(26) 「第10回とくしま環境学習フォーラム」で講演・発表【1月28日】



講演の様子



活動成果発表の様子

徳島県・特定非営利活動法人環境首都とくしま創造センター・徳島新聞社主催による「第10回とくしま環境学習フォーラム」が徳島市シビックセンターにおいて開催され、ユネスコ部顧問の河野義知教諭が基調講演、ユネスコ部員が活動発表をさせていただいた。講演の演題は「環境問題と闘った先人たちの知恵に学び行動する」であった。別子銅山の近代化に伴って起こった環境問題に先人たちがどのように立ち向かい解決していったのかについてお話し、ユネスコ部の活動についてもご紹介させていただいた。そして、ユネスコ部員からは、本校で今年度取り組んだ「ESD環境教育プロジェクト事業」(愛媛県教育委員会主催)についての活動成果を発表させていただいた。発表後、別子銅山へ登ってみたいとの嬉しいご感想もいただくことができた。

その後、環境の学び発表会として、徳島県内で環境学習に取り組んでいる小学校や中学校の発表が行われた。発表したのは、阿南市立山口小学校が学校と地域の連携で取り組むエコプロジェクト、徳島県立富岡東中学校が環境・防災・子どもの3つの領域学習を通して持続可能な世界について考える学習実践、徳島市応神中学校は学校からのごみ排出ゼロを目指した取り組みについて、堂々とした態度で立派に発表していた。

体験を通すことで学びが深められ、次の発展的な行動へとつながっている素晴らしさに感動した。

鳴門教育大学特命教授の近森憲助先生もご来場されており、発表後、今後の取組について様々なご指導をいただくこともできた。今回も徳島県で多くのご活躍されている皆様と出逢いがあり、今後へつないでいきたいと思う。

(27) 産業社会と人間「別子銅山近代化産業遺産フィールドワークⅠ」

旧広瀬邸・広瀬歴史記念館訪問事前学習会【2月3日】

1年次生の総合「産業社会と人間」において、旧広瀬邸訪問の事前学習を本校会議室で行った。講師は、1・2年次生のユネスコ部員6名が務めた。

始めに、広瀬幸平の生い立ちについて紹介し、別子銅山を中心とした功績、人物像に触れ、旧広瀬邸の魅力について発表した。その後、新居浜市が制作したビデオ「遠図(ENTO)～広瀬幸平の残像～」を視聴した。フィールドワークでは、現地で広瀬の想いを感じてほしいと思う。



広瀬幸平について紹介している様子



ビデオを視聴している様子

(28) 地域教育東予ブロック集会第1回大会で発表【2月5日】

「かかわりをチカラに つながりをカタチに」を合言葉に、「地域教育東予ブロック集会」(主催:同実行委員会)の第1回大会が西条市中央公民館を会場に開催された。

毎年大洲で開催している「地域教育実践交流集会」において、各地の地域活動者・活動グループが互いの交流を深め、地域の教育力を高め合う交流を行っている。今回はその取組を東予でも行い、「高校生発!私たちの地域づくり!」として各地域で活躍している高校生に視点を当てた集会となった。

そのシンポジウム「高校生が地域と取り組む実践報告」において、ユネスコ部の加藤文音さんと古川若奈さんの二人が報告をさせていただいた。

情報科学部からユネスコ部への変遷や別子銅山をテーマとした活動や東北での現地研修、ツガザクラ保護活動や子ども食堂などについて紹介した。



活動報告の様子



活動報告を行なった高校生メンバー

また、同じく新居浜からはボランティアサークルM a yの皆さんも報告され、地域の方々と連携して高校生が企画・運営した数々の活動について詳しい写真や先輩からのビデオメッセージなどで活動内容を分かりやすく具体的に紹介された。

そして、県外からの事例として、高知県黒潮町教育委員会からの報告や岡山県立矢掛高校の実践報告も行われた。特に、矢掛高校は学校設定科目として「やかげ学」を立ち上げ、地域と連携して1年間実習活動を行っていることであった。そのことが、様々な活動に派生し、矢掛町内の小・中・高校生が主体となったまちづくり活動へと展開しており、大変な驚きを感じました。また、矢掛高校は2008年にユネスコスクールに認定された先進校でもあった。

その後、「若者と共に拓く地域づくりにどのように取り組むか」をテーマにワークショップも行われ、参加者同士でさらに学びを深められた。今回の大会に参加させていただき、多くの出逢いがあり、同時に大きなヒントをいただくこともできた。本校での実践に活かされるよう努力していきたいと思う。

(29) 産業社会と人間「別子銅山近代化産業遺産フィールドワークⅠ」【2月9日】

総合「産業社会と人間」において、工業都市・新居浜の歴史を学び、現在の新居浜市の礎を築いた先哲の偉大さを実感する機会とし、新居浜の人々が別子銅山に寄せる

思いの深さも理解することを目的に、旧広瀬邸と広瀬歴史記念館を1年次生117名が訪問した。

旧広瀬邸では、居間の掘りこたつに入ってみたり、新座敷から庭園を眺めて感動の声を上げたり、事前に学習していたことを振り返りながら、ひとつひとつ興味を持って楽しく見学した。中には、展示の解説を丁寧にメモするなど熱心に取組む姿も見られた。また、母屋の望煙楼から眼下に広がる新居浜の街の景観をしばらく見つめている生徒もいた。帰校の時間になっても、しばらく居たいと感想も出るほどの盛況振りであった。



旧広瀬邸見学の様子



記録をとっている様子

(30) 平成28年度 第2回ESDフェスティバルの見学【2月11日】

新居浜市教育委員会主催によるESDフェスティバルが、あかがねミュージアムで開催された。このフェスティバルは、昨年からはまり、今年で2回目となる。第1回目は新居浜市市民文化センターでの開催であったが、あかがねミュージアムが開館したこともあり、今年はこちらが会場となった。市内各小中学校から多数の児童・生徒・教員が参加する中、ユネスコ部員も見学させていただいた。

午前中の開会式のあいさつで、関福生新居浜市教育長は、「今回の作品は、日々の生活に密着したふる里への思いがこもった作品が多く、日ごろの活動を大切にしていることが感じられた。」と述べられた。

「第11回こころのことはコンクール」「第4回新居浜市小中学生ふるさと学習奨励賞」の表彰及び発表会が行われ、小中学生の皆さんの感性の豊かさ、プレゼンテーション能力の高さに驚きと感動の連続であった。特に、ふるさと学習では、ふる里を知るだけではなく、情報を収集してまとめる力や表現する能力が高められ、そのことからシビックプライドが生まれ、視点がグローバル化していくという学びの発展を見ることができた。

午後は、「ESD奨励賞」の表彰及び実践事例発表が行われた。市内小中学校の他、先進的な取組を行っている高知県四万十町立七里小学校や松山市立新玉小学校の児童の皆さんによる発表もあり、お手玉や笛の演奏、演技も取り入れ、分かりやすく楽しい内容であった。さらに、ポスターセッションも行われた。各ブースでは、小中学生

の元気な声が飛び交い、実物やパネル、中にはタブレットを使うなど工夫され、時間をかけて準備をされている熱意が感じられた。



ふるさと学習発表の様子



実践事例発表の様子



中学生のポスターセッションの様子



小学生のポスターセッションの様子

閉会式では、鳴門教育大学特命教授の近森憲助先生が講評をされ、「今回の取組全てがESDであり、その一本通っているキーワードが『つながり・絆』である。」と述べられた。今回参加させていただいたことで、小中学生の実践力の大きさ、学びの深さ、プレゼンテーションのレベルの高さには目を見張るものがあり、たくさんのヒントをいただくことができた。私たちもさらに頑張らなければならないという思いを新たにすることができた。また、多くの方との出逢いもあり、このことをチャンスに、「学びの絆サイクル」の輪の循環に拍車をかけて行きたいと思う。

(31) 地球村へようこそ！『第27回新居浜グローバルパーティー』への参加

【2月12日】

「JUST ONE WORLD!～世界は一つ～」を合言葉に、グローバルパーティーを楽しまう会・SGG新居浜が主催し、新居浜ウイメンズプラザを会場に第27回新居浜グローバルパーティーが開催された。

外国の方は14ヶ国111人（昨年71人）、日本人を含めた総数は410人（昨年370人）が参加した。

本校からは、張永慶先生の中国語講座とユネスコ部がブースを設けさせていただいた。ユネスコ部は4回目の参加となった。

昨年に引き続き、別子銅山の近代化産業遺産について、英語での紹介にチャレンジしようと、英語での説明文を用意した。部員それぞれがお気に入りの近代化産業遺産を分担して臨んだ。なれない英語での説明ということもあり、最初は緊張して躊躇していたが、勇気を出して話しかけ、頑張って説明させていただいた。昨年よりは一歩踏み出せた取組ができていた。皆さんとても優しく、フレンドリーで、私たちの説明一つ一つなすきながら聞いてくださった。

今回の貴重な体験は、私たち一人一人の「心の中に平和のとりでを築く」大きな一歩となった。これからも勉強を積み重ねて、説明の範囲もさらに広げられるようレベルアップを目指したい。



スタッフ一同で記念写真



英語で解説するユネスコ部員の様子

(32) 第2回百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会【2月16日】

首長部局から12名、学校・企業・団体等の関係者11名、活動発表としてユネスコ部員6名の計29名が参加して、第2回CP委員会を新居浜南高校会議室において開催した。

ア 開催日時 平成29年2月16日(木) 14:00~15:00

イ 開催場所 愛媛県立新居浜南校高等学校 会議室

ウ 会次第

14:00~14:10 開会式

あいさつ 新居浜市教育委員会教育長 関 福生
愛媛県立新居浜南高等学校長 村上敏之

委員自己紹介

14:10~14:40 事業概要ならびに活動経過報告

14:40~14:50 質疑応答

14:50~15:00 閉会式

開会式において始めに事業受託団体である新居浜市を代表して新居浜市教育委員会の関福生教育長より「この事業をやってよかったと思う。各事業の度に高校生の姿を見ることができ、南校という学校が地域の方と大きなつながりをつくって行ったださると実感する。新居浜市内の小中、そして高校とユネスコスクールにE S Dにおける学びを推進してくれている。先日のE S Dフェスティバルでも見られたが、E S Dでは学んだ知識を生かして実践を重ね、その中で本当に生きていく力を身に付けていく。教育そのものが大きく変化してきたなと改めて感じている。とりわけ、2020年には新しい学習指導要領に切り替わる中では、本当の意味での学ぶ力、生きるうえで必要な力を評価するようなしくみが生まれようとしている。その先導的な役割を本委員会は担っていると思っている。社会教育、学校教育、そして民間の企業、あるいは大学等の力、そういったものが繋がることによって、行政のわれわれメンバーにとっても新しい取組が広がってきている。この事業の成果をこれから先、強く市民全体に、県内に、場合によっては全国に広げて行けるような取り組みにさらに深めていただければと思う。本会において忌憚のないご意見を出していただき、来年度につながるようなご指導をいただきたい。」とごあいさつをいただいた。

続いて、実践校を代表して新居浜南高校の村上敏之校長に「本校では本事業に加えて、本校では様々な事業に手を挙げている。文部科学省主催の「サステイナブルスクール」の取り組み、本校として「地域共創系列の創設」、さらに愛媛県教育委員会主催の「地域に生き地域と共に歩む高校生育成事業」では来年度の予算を獲得にユネスコ部のメンバーとプレゼンテーション審査会にも臨んだ。その際、審査員からシビックプライドを創造する際の検証について質問があった。そのことについてご助言、ご指導賜りたいと思う。また、生徒に聞いてみると、南高に来て良かった、楽しいですと言っている。保護者のアンケートでも満足度が年々上がってきている。そういうところが、我々のやってきたシビックプライド創造を含めたE S Dの成果ではなかろうかと思う。推薦入試が先ほど行われ、本校がユネスコスクールになったのが平成 22 年、その頃は定員 36 人のところ 40 人から 44 人の応募であったが、新居浜市の小中学校がユネスコスクールとなった平成 26 年には 49 人、平成 27 年に 71 人に増え、今年は 83 人という応募があった。つまり、小中で様々なE S D活動を行ったり、ユネスコ部との交流をしてきた生徒が、第一希望で本校を目指してくれている。そういうところにも、成果として生かされていると、その一端が出てきているのではないかと大変ありがたく思っている。本校は総合学科であり、進学校ではない。これまで、いかに利益を子ども達に授けるかを、大学進学にメリットがあるか、就職にメリットがあるかという利益を追求していたものが、本校はどちらでもない。学校がさまざまな多面的なものの考え方を生徒と一緒に考えようと、個性を伸ばしてやっていこうと、E S Dもやっていこうと、そういうようなところに高校 3 年間子どもを預けてみようと、自分が行ってみようという生徒が増えていっているとするならば、これはシビックプライドの創造であったり、E S Dのひとつの成果ではないのかと思う。今回はこの 1 年間の報告を受けることによって、ご検討いただき、ご指導・ご助言賜りますようお願い申し上げます。」とごあいさついただいた。

その後、事業報告として総合学科課長の河野義知教諭から12月から現在までの事業報告がなされた。本事業の成果物として、旧広瀬邸のガイドブックについて紹介した。また、日本ユネスコ協会連盟が主催する「第7回ESD国際交流プログラム」へユネスコ部員の古川若奈さんが日本代表の一人として選出されたこともご報告させていただいた。これも本事業を積み重ねてきた結果、得られた大きな成果である。

続いて事業の目玉の一つであった「秋田現地研修」について、ユネスコ部員が研修成果の発表を行った。発表後は、これまでの取組を通しての感想や自身の変化について一人一人が述べた。部員たちは、郷土への愛着や誇りが持てたこと、コミュニケーション能力が向上したこと、自分に自信が持てるようになったことなど、思い思いに今の自分について語る事ができていた。そのことも本事業の成果の表れではないかと思う。

鳴門教育大学特命教授の近森憲助先生からはシビックプライドの創造の検証について、事前事後のアンケートを実施し、その質問内容も単純化し、選択肢は4か6といった偶数が良いとのアドバイスをいただくことができた。

最後に、来年度の事業計画についても説明させていただき、今後も本委員会を継続させていただくことについてご理解とご協力をお願いした。



関福生教育長あいさつの様子



村上敏之校長あいさつの様子



ユネスコ部員発表の様子



会場全体の様子

7 実践研究の成果と課題

- 様々な団体や人々との繋がりが生まれるとともに、多様な人たち・文化等との交流により、視野の広がりやコミュニケーション能力が高められた。
- ふるさとへのシビックプライド（愛着心や誇り）のが芽生え始めてきた。
- まちへの関心が高まり、まちづくりへと意識が深化してきた。
- SNSや市政だより等による発信により、活動が広く周知されている。
- 新居浜南高校（総合学科）教育課程内に、来年度「地域共創系列」を創設について、愛媛県教育委員会への承認が得られ、中学校への案内やメディアでの報道も行い、年間学習指導計画の作成など、実施に向けた具体的な準備がなされている。

8 今後の取組予定

（1）協同体の開催について

新居浜市教育委員会と首長部局ならびに大学、企業、団体、愛媛県行政等関係機関等から構成される「百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会」を新居浜南高校へ設置し、プログラムの企画立案・実施の支援等、事業の総合的な推進を図る。プロジェクトの推進は当該校の総合学科課長が担い関係機関間の連携・調整を円滑に行う。

（2）プログラムの策定について

新居浜南高校は、ユネスコスクール、サスティナブルスクールとして別子銅山の近代化産業遺産を活用したESD活動を行っており、その活動を基軸に次のプログラムを策定、実践する。

○「別子銅山ガイドブック作成」プロジェクト

別子銅山の近代化産業遺産の魅力をガイドブックにまとめる学習プログラムを策定、実施する。作成されたガイドブックを地域の教育機関や観光施設などに配布して、学校での教材や観光案内などに幅広く活用することで地域理解や交流人口の拡大につなげる。また、同様な産業遺産を有する他地域にも視察を行い、その学びをガイドブック作成に活かす。

○「学びの絆サイクル」プロジェクト

市内小・中学校の別子銅山学習の出前授業や学校周辺の別子銅山の近代化産業遺産をフィールドワークする学習プログラムを策定、実施する。地域に対するシビックプライドを醸成し、「学びの絆サイクル」を循環させる学習機会を創出することで人口流出対策への一助とする。一般者向けの生涯学習講座等とも連携する。

○「地域共創系列」プロジェクト

CP委員会の関係機関と連携し、別子銅山を教育資源として活用した教育プログラムを策定、新授業カリキュラムの構築を実施し、新居浜南高校において平成30年度より開設される新系列「地域共創系列」の潤滑な展開を図る。

○「別子銅山を学ぼう」プロジェクト

新居浜市や愛媛県と連携し、別子銅山を核とした教育プログラムを策定、実施する。修了者は観光ボランティアガイドの実践を通じて、自己有用感を育み、地域社会の一員として存在感を高める。

